

校長室の窓から

好奇心をもって夏休みを過ごそう！

一学期が終わりを迎えようとしている時期です。最近の子供たちの様子を見て、「子供たちは、自然と素晴らしい力を身に付けていっているなあ。」と感じた場面がいくつかありました。

例えば、学習の時間に、「私が言います。」と言って、どんどん他の人の発言に付け加えて発表する人の姿を多く見ます。先日全校レクでは、集まった人が児童会の人の話を聞くと、みんな体育座りで注目して聞いている姿がありました。これらの姿は、これまでの積み重ねから自然と生まれた姿だと思います。さて、一学期に蓄えた力をもとに夏休みの生活についても少し考えてほしいですね。子供さんがいる家庭では、今年こそ多くの経験をさせてあげたいと、さまざまな計画を立てておられるのではないのでしょうか。せっかくの経験を子供の成長につなげるために私たち親ができることはどんなことでしょうか。

「知的好奇心は人生を豊かにする」という言葉があります。夏休み、子供は、何をしたら楽しむかな。何を見たら喜ぶかな。今しかできないことって何だろう。わくわくして、目をキラキラさせ、熱中している子供の姿が見たい。そんな思いが浮かんだときは、チャンスー子供が新しい経験をおもしろがったり、楽しんで「もっと知りたい！」「と興味をもちはじめたりしたら、それは知的好奇心となつて、子供の脳を育てる原動力となります。知的好奇心とは、身の回りの物事に対して「おもしろいな、なぜだろう？」「と興味をもち、「もっと知りたい、もっとその経験をしたい。」と自発的に探求する力のことだといわれています。その好奇心を満たすために、努力をしたり、忍耐したりする力も知的好奇心のなせる技ではないでしょうか。さあ、親として、大人として、どんなことをしたらいいか考えていきましよう。

学校長 田丸 栄